

特徴的フレーズ解説も

山形で「作曲賞21」受賞作初演
山響定演

山形交響楽団の第202回定期演奏会が16日夜、山形市の山形テルサで開かれ、「山響作曲賞21」第2回受賞作に選ばれた壺井一歩さんの「はるかな祭と海」を初演したほか、オーストリアの若手ピアニスト、コルネリア・ヘルマンさんがブラームスのピアノ協奏曲第1番を独奏。山響はさらに、ブラームスの声楽曲「運命の歌」を山響アマデウスコアと共演した。指揮は音楽監督飯森範親さん。

授賞式で、三宅高子山形交響楽協会理事長から盾を受け取った壺井さんは、曲について「速いテンポの1楽章は祭りをイメージし、ゆっくりとした2楽章は海を描写している」。曲に登場する「盛岡さんさ踊り」の旋律、ほら貝の響き、船の汽笛など特徴的な

フレーズを、楽団員の演奏を交えて解説した。



ブラームスのピアノ協奏曲を、ヘルマンさんは叙情性に力強さを織り交ぜたつづりと演奏。平和な天上世界と不安に満ちた人間界を対比させた「運命の歌」には、山形大、

岩手大で音楽を学ぶ学生有志も合唱に参加、音に厚みを与えた。
きょう17日午後4時から、山形テルサで同じプログラム

コルネリア・ヘルマンさんがブラームスのピアノ協奏曲第1番を独奏した山形交響楽団第202回定期演奏会 山形市・山形テルサ



演奏会終了後の交流会で、曲に込めた思いを語る第2回「山響作曲賞21」を受賞した壺井一歩さん(中央)